



NPO 法人
茨城県防災士ネットワークだより

発行日 平成 27 年 1 月 吉日

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士ネットワーク

責任者 広報・機関紙部長

高橋 茂

編集制作・機関紙副部長 加瀬 孝雄

1. 平成 26 年度茨城県総合防災訓練への参加

(1) 総合防災訓練に参加

平成26年8月30日(土)、神栖市木崎「中央公園」地内において、茨城県と神栖市が主催して、総合防災訓練が実施された。当日は、関係機関約120団体、総勢7,500人が参加した大きな訓練となった。

本訓練では、茨城県沖を震源とする M7.7 の地震発生を想定したもので、津波対策にも重点をおいての訓練となった。会場となった神栖市は海岸に近く、標高の低い平坦な地域の為に避難ビルが設けられていることから、津波避難ビルを指定し、4か所への迅速な津波誘導訓練が実践され、本番さながらの避難行動となった。



当 NPO 法人茨城県防災士ネットワークでは、参加協力機関の一組織として展示ブースを設け、

- 液状化現象模擬セット ○筋交いバランス模擬セット ○漏電ブレーカーの模型
- 防災クイズ等、で総合訓練に参加した。

防災クイズの参加者にプレゼントした呼子(笛)は、災害に遭遇し倒壊した建物等の下敷きになった時に、自分の居場所を知らせるツールとして大好評であった。

以上、中崎智雄防災士 談

参加者：山田章、横山松夫、小池實、小泉正博、井出洋一、貝塚勇、野口正弘、中崎 智雄、横田信子、野村彰宮本博海、黒田一雄、中村隆、福島末輝、西村正夫(敬称略、順不同)

◎ 上記以外に行われた県内の総合防災訓練は下記のとおり。

- ・ 土浦市総合防災訓練(平成 26 年 11 月 9 日 / 1,500 人規模)
- ・ 結城市総合防災訓練(平成 26 年 11 月 30 日 / 2,000 人規模)

等が行われておりそれぞれ当ネットワークからも応援派遣して、防災意識高揚のための活動を展開した。

(2) 茨城放送防災特集番組にコメンテーターとして出演

前記の茨城県総合防災訓練中の午前 9 時から午後 1 時までの間、茨城放送で「防災スペシャル あなたの備え！私の備え！」と題し、パーソナリティの木村仁美アナウンサーとコメンテーターとして高橋茂防災士との対談が放送された。



対談の主な内容は、「防災士とは？」から始まり、今回の防災訓練の注目点や昨今の猛威を振るう自然災害への対処の仕方、地域との関わり方、より効果的な訓練のあり方、自助、共助、公助のあり方等についてであった。また、放送中、リスナーからメールやファックスで寄せられた多くの質問に答えるコーナーもありました。

2. 日本防災士会創立10周年記念行事への参加

平成26年10月18日(土)東京都千代田区永田町「青陵会館」において、標記の記念行事が第一部(講演)、第二部(シンポジウム)構成で、開催された。

冒頭、浦野修 日本防災士理事長より挨拶があり、昨今頻繁に発生している大災害に鑑み、防災士がより重要となるとの講話があった。次に来賓者代表として東京都副知事 前田 信弘氏による祝辞、また「地域防災と防災士の役割」と題して目黒公郎 東京大学生産技術研究所教授より基調講演があった。



第2部の防災士シンポジウムでは、「地域に貢献する日本防災士会～次の10年を展望する」と題して、シンポジウムが行われた。コメンテーターに浦野修理事長、パネラーに当ネットワーク専務理事の益子さや子 茨城県防炎会議委員、梅木直幸 関西 広域連合防災担当、大石信雄 兵庫県支部長、旭芳郎・長崎県支部長が登壇し、

- ・行政とのタイアップにより認知度を高める
 - ・防災まち歩きの推進
 - ・行政の人たちが、地域において防災士の資格取得する例が増加している
 - ・防災士の組織は、成長の段階にあるが方向性に間違いはない。
 - ・最終的には災害から守れる命を救う、災害から人の命を守ることが目標となる
- 等の意見が交わされた。

3. 指導者養成をめざしDIG/HUG フォローアップ研修会への参加

11月9日(日)栃木県作新学院大学において、標記の研修会が本部指導の下で開催された。主催は日本防災士会北関東連絡協議会で、研修会に先立ち栃木県防災士会は、作新学院と「防災・減災に係る連携協力に関する基本協定書」を交わした旨の報告があった。

今回のDIG 訓練は、第三段階の進め方であり町内地図を使って災害対策を考え災害時要配慮者支援などの対応についても検討した。

HUG(避難所運営ゲーム)フォローアップ研修会は、「避難者カード」の内、代表的なカードを抽出し、そのカードに記された内容に対しての対応を班別に協議し、避難所運営のノウハウを学んだ。

研修参加者：荻野悦男、高橋義一、長屋和宏、山本美和、田中 寿、大川太作、小池 實、藤城充英、人見克彦、柴田美智子、小川欣也、市村謙一、渡辺 平、加瀬孝雄、黒田一雄、中村 隆、西村正夫(敬称略、順不同)



4. 石岡市防災研修会と避難所開設訓練HUG の開催

平成26年9月26日(金)、ふれあいの里石岡ひまわり館において標記の研修会が開催された。

第一部は、高橋茂防災士による「自主防災組織の必要性について」と題して講演があり、

- ・今後30年以内に発生するマグニチュード7クラスの地震(首都直下型地震・東南海・南海トラフ地震及び茨城県・千葉県沖の海溝型地震等)の発生確率は、東日本大震災の地殻変動により非常に高くなったと言われている。
- ・このような中、事前対策、発災時の地域防災・減災を図るためには、自主防災組織を立上げ、自らの命や家族の命を守る自助・隣近所の連携、協力等の共助が必要。
- ・火災発生時は、初期消火が必要不可欠であることから、自主防災組織を中心に計画的な防災訓練などを行うことが必要であると力説し、イラストや写真等を使ってわかりやすく受講者に訴えた。

第二部は、避難所運営ゲーム(HUG)を行った。

横田信子防災士をリーダーとして、以下のコーディネーターにより実施した。

中崎智雄、宮本博海、加瀬 孝雄、林 昌子、海塚 勇、山口辰男、野口正弘(敬称略、順不同)。



質疑応答では、喫煙者の扱いをどうするか。犬、猫のペットは家族同様に考えている人も、扱いはどうすべきか、等の質問もあり、犬・猫にアレルギー反応を示す人もいたので原則、外で飼うことになる等と説明した。

5. 住宅密集地での火災を想定した図上訓練の開催

11月23日(火)、水戸市古宿町内DIG研修会を実施した。研修会では、当ネットワークの加瀬孝雄防災士がリーダーとなり、サブリーダーに地域の防災連合会長や運営委員長を始めこれまでに実施した吉田地区におけるDIG研修の経験者があつた。

研修に先立ち、まず全員で町歩きを行い防災のポイントをつかむ探索を行った。その後公民館に集合して防災倉庫備蓄品の確認を行うと同時に、女性部は炊出しを行った。三世帯40名が4班に分かれ、災害図上訓練DIG(火災編)を行った。

実施した内容の概略は、以下のとおり。

ア. 町の危険箇所調査では、実際に歩いて危険箇所(塀の倒壊瓦や看板の落下)を調査。消火栓、防火水槽の確認、災害協力井戸の看板の見分け方、災害協力井戸で「ガッチャンポン」の使い方確認。「町内大型防災マップ」の掲出、同マップの概略説明会の実施。(※ガッチャンポンは町内会長の製作品、新規に作成されたもの)

イ. 女性部による「とん汁」の作り方

ウ. 災害図上訓練(火災編)

DIGの想定としては、震度6の南関東直下型地震が発生し、被害状況は1件の火災発生、全倒壊家屋1件の想定で行った。

訓練終了後、意見交換を行い、自助はどうあるべきか、事前の準備、発災時の共助はどうあるべきか、救出・救助、避難路をどう確保するか、家具等の転倒や落下物対策や、家屋の耐震化の必要性、住宅密集地域のため、向こう三軒、両隣の声掛けと初期消火が重要、近所との連携には、平日頃のコミュニケーションが何より大切である等、多くの貴重な意見が出され、大変有意義であった。



ガッチャンポンの説明



消火栓の説明



親子で参加

6. 「段ボールを使った簡易トイレ」と「チラシを使った紙皿」作り方指導

12月4日(木)鉾田市徳宿小学校において児童150名 教職員自治体職員10名、保護者30名計190名が参加し、防災講座が行われた。保護者と生徒が一緒になって「段ボールを使った簡易トイレ」と「新聞折り込みチラシを使った紙皿」作りに挑戦した。

大規模災害でライフラインがストップした際に、生活上最も支障が出るのは「トイレ」の問題である。学校や家庭でトイレが使用不能となった際、身近にある物を有効に活用し災害に備える訓練を行った。和やかな雰囲気の中かで一つの作業を通じて親子の触れ合いが見られ、大変好評であったと後日、主催者から連絡があった。

しかし本講座のように学校における行事の場合、特にカッター等を使用するイベントにおいては、生徒自身に直接カッター等の危険な道具を使わせない等、主催者側と事前打ち合わせにおいて十分な協議と責任分担範囲の取り決めを行い、安全管理上の配慮を怠ることの無いよう注意していただきたい。

なお指導者として柴田美智子、横田信子、野村彰、益子さや子、西村正夫、高橋茂

各

防災士が参加協力した。



段ボール紙で簡易トイレ作り

7. アルミ缶を利用してご飯を炊く、サバメシの工夫した作り

10月24(金)かすみがうら市立佐賀小学校において児童19名、保護者19名計38名が参加して、猪塚光彦、益子さや子、柴田美智各防災士の指導のもと、防災講座が実施された。本講座では、大震災によりライフラインが寸断した時でもできる空き缶(アルミ缶)を利用したご飯の炊き方、サバイバル「サバメシ」について挑戦した。

参加した児童は、こんな空き缶でご飯が炊けるのか半信半疑でいた様子であったが、作業が始まると興味を示しイキイキとして親子で作業に集中した。炊きあがったサバ缶炊飯に「給食よりも美味しい」との言葉もあり満足の様子であった。指導する側も、生徒の関心の高さと、興味深く観察する姿に接することができ安堵感に浸るたることができ、充実した講座となった。



8. 「DIG 研修」、「HUG 研修」並びに「避難所開設」研修会実施報告

前号掲載以降に行われた各種研修会における指導状況は以下の通りである。(敬称略、順不同)

研修内容	実施日	対象団体名	参加会員氏名
HUG	9/26	石岡市防災対策課	横田信子、宮本博海、加瀬孝雄、高橋茂、福島末輝、
HUG	10/25	県西生活センター	鈴木勇、安東正好
HUG	11/2	城里町青山自主防災会	西村正夫、志村健一
HUG	11/3	阿見町防災課	石引君子、間宮和光、鶴長文正、山田 章、野口正弘、貝塚 勇、横山松夫、野村 彰、横田信子、宮本博海、西村正夫、阿久津聡、益子さや子、中村 隆、黒田一雄
HUG	11/11	八千代町学校防災研修会	鈴木勇、安東正好
HUG	12/20	竜ヶ崎市自主防災連絡協議会	西村正夫、中村 隆、黒田一雄、宮本博海、野村 彰、藤城充英、小池 實、貝塚 勇、鶴永文正、間宮和光
HUG	12/20	大子町教育委員会	志村健一、櫛田稔、柴田美智子、小川欣也、長瀬昭男、加瀬孝雄、井上亮二、益子さや子、西村正夫
D I G	9/27	吉田地区自治実践会	加瀬孝雄(経験者・防災連合会長、実践会委員長応援)
D I G	11/23	吉田地区古宿東町内	加瀬孝雄(経験者・地元防災連合会長、運営委員長応援)
D I G	12/20	阿見町交通防災課	安東正好、益子さや子、中村 隆、西村正夫、橋本 茂、
D I G	12/25	大子町教育委員会	志村健一、櫛田 英、柴田美智子、小川欣也、長瀬昭男、加瀬孝雄、井上亮二、益子さや子、西村正夫

9. 講演会並びに防災教室

(1) 学校関係

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	対象団体名	参加会員氏名
生徒を中心とした防災教室	那珂市立瓜連中学校	柴田美智子、湖口知朗、井上亮二
	八千代町立東中学校	安東正好、鈴木 勇
	水戸市立第四中学校	加瀬孝雄

結城市立結城中学校	鈴木 勇	
茨城県立美浦特別支援学校	福島末輝、宮本博海	
茨城県立水戸特別支援学校	加瀬孝雄	
茨城県立境特別支援学校	鈴木勇、西村正夫	
水戸市立第四中学校	加瀬 孝雄	
茨城県立境特別支援学校	西村正夫、鈴木勇	
つくば市立小野川小学校	福島末輝、横田信子	
茨城県立結城特別支援学校	鈴木勇、高橋義一	
城里町立七会小学校	柴田美智子、益子さや子	
つくば市立東小学校	斎藤友孝、田中寿	
つくば市立荃崎第二小学校	若林美智子、長倉喜代	
つくば市立二の宮小学校	斎藤友孝、鳥越俊輔	
茨城県立境特別支援学校	加瀬 孝雄	
常陸太田市立西小沢小学校	高橋茂	
茨城県立つくば工科高校	福島末輝、横田信子	
茨城県立美穂特別支援学校	西村正夫、黒田一雄	
土浦市立大津東小学校	福島末輝、宮本博海	
日立市立泉丘中学校	井上亮二、小川欽也	
茨城県立結城特別支援学校	鈴木勇、高橋義一	
かすみがうら市立佐賀小学校	猪塚光彦、益子さや子、柴田美智子	
守谷市立松前台小学校	猪塚光彦、斎藤友孝	
茨城県立茨城東高校	加瀬孝雄、益子さや子	
行方市立玉造小学校	横田信子、野村彰	
守谷市立御所が丘小学校	猪塚光彦、斎藤友孝、中村義徳、鳥越俊輔、河村玲子	
守谷市立黒内小学校	猪塚光彦、斎藤友孝	
守谷市立大野小学校	中村 隆	
つくば市立小野川小学校	宮本博海、横田信子	
つくば市立矢田部東中学校	鈴木 勇	
つくば市立矢田部東小学校	鈴木勇、斎藤友孝	
銚田市立徳宿小学校	横田信子、野村彰、益子さや子、西村正夫、高橋茂	
北茨城市立中郷中学校	高橋茂	
茨城県立美浦特別支援学校	宮本博海、西村正夫	
守谷市立守谷小学校	猪塚光彦、斎藤友孝	
土浦市立都和中学校	宮本博海、横田信子	
つくば市立筑波小学校	猪塚光彦、澤邊薫	
小美玉市立小川北中学校	中村隆、中崎智雄、宮本博海、野村彰、貝塚勇、山田章	
筑西市立太田小学校	鈴木勇、安東正好	
県教育委員会	県民文化センター	永倉喜代
地域との連携	土浦西根南2丁目老人会	福島末輝、宮本博海

(2) いばらき防災大学、教育委員会 等

前号掲載以降に行われた防災講座は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内容	対象団体名	講師等
防災講座	いばらき防災大学	高橋 茂
	茨城県教育委員会主催シンポジウム	永倉喜代

(3) 自治会・自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた防災講演は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内容	対象団体名	講師等
防災講演	土浦市西根南公民館	福島末輝、宮本博海
	古河市社会福祉協議会	鈴木勇、高橋義一

(4) 防災訓練への参加

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内容	対象団体名	参加会員
会場展示	茨城県・神栖市防災総合訓練	P-1 記載のとおり西村理事長以下 15 名出席
〃	土浦市総合防災訓練	宮本博士、貝塚 勇
〃	結城市総合防災訓練	坂正巳、藤井仁、高橋義一、安東正義、猪塚光彦、鈴木勇、阿久津聡、西村正夫

10. 茨城県教育庁生涯学習課主催のシンポジウム参加報告

去る 11 月 21 日、茨城県立県民文化センターにおいて、茨城県教育庁生涯学習課主催の「地域連携の防災教育の実践」と題したシンポジウムが行われた。当ネットワークから、永倉喜代防災士がコメンテーターとして出席したので、その概要について、報告します

シンポジウムでは、第一部が講演会と「学校と地域の連携による学校防災を考えるつどい」、第二部がシンポジウムの構成でおこなわれた。

◎講演会は矢崎良明 鎌倉女子大学講師による「大地震に備えた学校防災教育」と題して行われた。

特に印象に残ったことは、3, 11 の時に東京都のある小学校で「緊急地震速報の活用」を日頃から訓練していたことで児童・生徒があわてることなく、直ちにスムーズに身を守る行動が展開されたとの内容でありました。

◎シンポジウムでは、

・コメンテーターの坂井講師により、最近の多くの自然災害の記録が記録媒体として DVD により残されているがその保存期間は、自然劣化等により約 30 年が限度である。現時点では、何度か繰り返し複写などして保存する以外に手段は無いと述べた。

・女性の視点から、永倉喜代防災士からの提言があり、減災・防災に関することは、女性の集まる子どもの送迎や、会社の休憩室などのあらゆる場面での「おしゃべり」を通じ、阪神淡路大地震や東日本大地震で被災した経験を語り継いでいきたい。これらを通じて、「本当に困ったものは何か」。それらを日常の生活を通じて、伝えていきたい。災害時を想定し、「多くの防災グッズ」を買わなくても、身近にある物の利用、例えば買い物のレジ袋やストッキング、ハンカチは、止血や骨折の際の包帯として使える。ウエットティッシュ等を常時バックに持参することで突発の災害や事故時の応急的対応が可能となる。など生き抜く力や知恵を話された。

加瀬孝雄防災士 報告

11. NHK おしえて防災士コーナーの出演報告

4月から始まった標記放送について、前号（第009号）以降に放映された内容と出演者は以下のとおり。



7月「離岸流等の海の事故」

加
瀬
防
災
士



8月「台風の備え」

鈴
木
防
災
士



9月

「地震が来たらどうする」

中
村
防
災
士



10月

「食と防災」

益
子
防
災
士



11月

「親子で防災」

林
防
災
士

今後、3月までの放映予定に関しては、NHK水戸放送局「おしえて防災士」のコーナーに掲載されているので、そちらを参照されたい。

12. 第3回 理事会報告

平成26年度第4回理事会が去る10月12日(日)、県・三の丸庁舎交流サルンにて開催された。はじめに西村理事長より、①北関DIG/HUGフォロー研修会の概況②法人パンフレット作成について③県税事務所及び城里町より平成26年度減免許可について④定款変更の認証について等についての説明があった後、報告事項として

- ① NHK 水戸放送局出演(9月10日)…中村 隆専務理事
- ② 海外視察研修会参加(9月28日～10月5日)…益子さや子専務理事
- ③ 種講演会報告並びに茨城放送出演(防災の日特集番組)報告…福島末輝副理事長、高橋茂副理事長
- ④ 被災地支援研修会(9月20日)の報告…鈴木理事
- ⑤ その他・水戸市吉田地区の広報紙紹介と「災害図上訓練 DIG(火災編)」の実施等の報告及び紹介があった。

議 題

議事に入る前、福島末輝副理事長及び中村隆専務理事より、各種講演会・研修会の日程説明並びに第24回鹿島まつり、阿見町総合防災訓練について口頭報告あった。

主な議題と審議の結果は下記のとおり。

- (1) 今後の講演会・研修会並びに各種イベント担当者の決定。
- (2) 広報・機関紙部支援体制並びに法人だより第10号の概要、その他の提案等
- (3) 県内被災地支援研修会の実施について概要説明があったが、日程の都合上、次年度へ繰り越すことで決定。
- (4) 新会員の承認について

以下の5名が承認された。(敬称略、順不同)

阿見町 浅野泰子、山本みゆき、牛久市 市川清次、古河市 矢野靖彦、矢野恵津子

脱会者

つくば市 永倉喜代（夫の転勤）、常陸太田市 広瀬 清（会社起業の為）

★ 女性会員紹介コーナー 1

県北太田・大宮（副ブロック長）

柴田美智子防災士

約10年前、私は「自分の住んでいる街は自分で守りたい」という思いで常陸太田女性消防団に入団しました。入団した女性消防分団では、早速、応急手当を学び、新鮮な気持ちで人の命を守れることに驚き、「知ることで守れる命がある」ことを学びました。

大災害が起きてから消防、警察等行政機関の公的機関依存では間に合わない。私は「災害が起きる前に学べることは何か。」と思い防災士になりました。今後、30年以内の発生確率が7割以上の高い確率で発生が危惧されている首都直下地震や南海、東南海・東海の3つの震源域が連動して起こる東海トラフ沿いの巨大地震にいか

に備えるかが課題であると思っております。生き残るための事前の備えは何か必要か、家庭や個人での備えは充分であるか。例えば耐震化や家庭の備蓄品、家屋内の家具転倒、落下防止対策やお隣との連携と共助体制等が充分であるか否かによって生存率が大きく異なることは、過去の大災害が示しているところであると思えます。

私は、地域で女性として消防団に入団し、今後、自主防災や自治会役員との連携・協力関係を維持しながら、防災訓練、応急手当や講習会に意欲的に参加し、体得し各種活動を通じて防災力を高めていきたいと考えております。そのことが結果として減災防災につながり、「知らないことで命を落とすこと」が少なくなるものと信じております。今後、多くを学び、女性の視点から減災、防災の普及啓発活動に貢献していけたならと思っております。

“3.11 あの日 わたしは”

東日本大震災発災時の活動

NPO 法人日本防災士ネット

水戸副ブロック長 渡辺 平

平成23年3月11日（金）午後2時46分、この時、私は車で幹線道路を帰宅途中で、これまでに経験したことのない左右の揺れにたまたま、ハザードランプを点けながら道路脇に停車した。外に出てみると道路は亀裂や段差がいたるところに生じ、信号も滅灯し、渋滞が始まった。やっとのことで自宅に戻ると、屋根瓦が落下し、家の中は、茶箆箆から食器類が落ち、足の踏み場もなく散乱していた。その後、近所の被害状況把握のため、自宅を出ると付近は半壊状態の家屋や屋根瓦の落下した家が多くあった。

さらに集落で、がれきの撤収や、清掃を手伝いながら、地区の班長と各家庭を訪問、挨拶を交わしながら安否確認を行った。この時点で怪我人もなくホッとした気分を味わう貴重な経験をした。

その後、副班長と地区内の小学校に行くと、すでに多くの町民が体育館に避難しつつあり、役場職員、消防団員等が慣れない避難所開設を開始していた。避難所には不安と恐怖、寒さに震えながら罹災者が続々とやってきたため私は、避難者の整理誘導の支援や、停電に備え発電機や投光器等の設置準備をした。その後、給水車による給水が始まり、行列ができたため、ポリタンクから給水して配分する作業も意欲的に行った。約300名の避難者は毛布1枚で体を縮めないと横になれない不自由さと寒さに戦い寝ずの夜をすごした。翌日には町対策本部からの救援物資が到着し、本格的な救援活動が開始された。

東日本大震災では、この地区でも震度6弱を経験し、全てのライフライン(水道、電気、都市ガス、通信、道路交通等)が一時的また長期的に停止したことにより混乱した。大震災により町民の平穏な生活が突然奪われ、多くがその備えが不十分であったことから右往左往した。再び同じような災害が発生した時にどう対応すべきか。一人ひとりの一層の減災・防災意識の向上が求められる。この大震災で改めて「備えの大切さ」を痛感した次第である。今後も自主防災組織や各種機関の防災訓練等に積極的に参加してボランティア活動に取り組みたい。

◎今後のイベント案内

平成26年度茨城県防災啓発研修会(自主防災組織リーダー研修会)が下記要領で開催されます。本年度は当ネットワークから益子さや子防災士が、地域防災への女性の参加、並びに柴田美智子防災士が自主防災会の活性化の試みとのテーマで講演発表を行います。

本年も昨年同様、3会場で実施されますので、お近くの会場へ参加してください。

多くの防災士ネットワーク会員の参加をお願いします。

※なお、参加申し込みにあたっては別途案内状を送付いたしますのでそちらの要領に従ってお申込み下さい。

(会員の参加は、ネットワーク全体でまとめて県に提出しますので案内状に従ってお申込みください)

～ ～ ～ ～ ～ 記 ～ ～ ～ ～ ～

1. 日程

- ◇ 常陸大宮会場 平成27年1月30日(金) 13時30分から16時
【常陸大宮市文化センターロゼホール (常陸大宮市中富町 3135-6)】
- ◇ 稲敷会場 平成27年2月18日(木) 13時30分から16時
【稲敷市あずま障害学習センター (稲敷市佐原組新田 1596)】
- ◇ 下妻会場 平成27年2月27日(金) 13時30分から16時
【下妻市民文化会館 (下妻市本城町3丁目 36)】

◎市町村の防災担当課の皆様へ

NPO法人茨城県防災士ネットワークでは、防災講演会や研修会の講師、DIG(災害図上訓練)やHUG(避難所運営ゲーム)、防災マップづくりなどの指導も行っております。

講師をお探しの場合は、下記までご連絡ください。

○ 窓口 : 福島 末輝 (役職 副理事長(兼)企画・研修部長) TEL 029-842-1823(自宅・FAX 兼用)

連絡先 : 〒300-0842 土浦市西根南1-12-44

メールアドレス sueki-f@jcom.home.ne.jp

会員の皆様へお願い ;

「3.11あの日 わたしは」のテーマで会員皆さんが3.11の当日、またそれ以降に行動した記録を募集しています。原稿は、400～500字程度でお願いします。

・送付先 : 〒310-0844 水戸市住吉町15-3 加瀬 孝雄 宛

・Eメールアドレス: abcd25621@yahoo.co.jp